

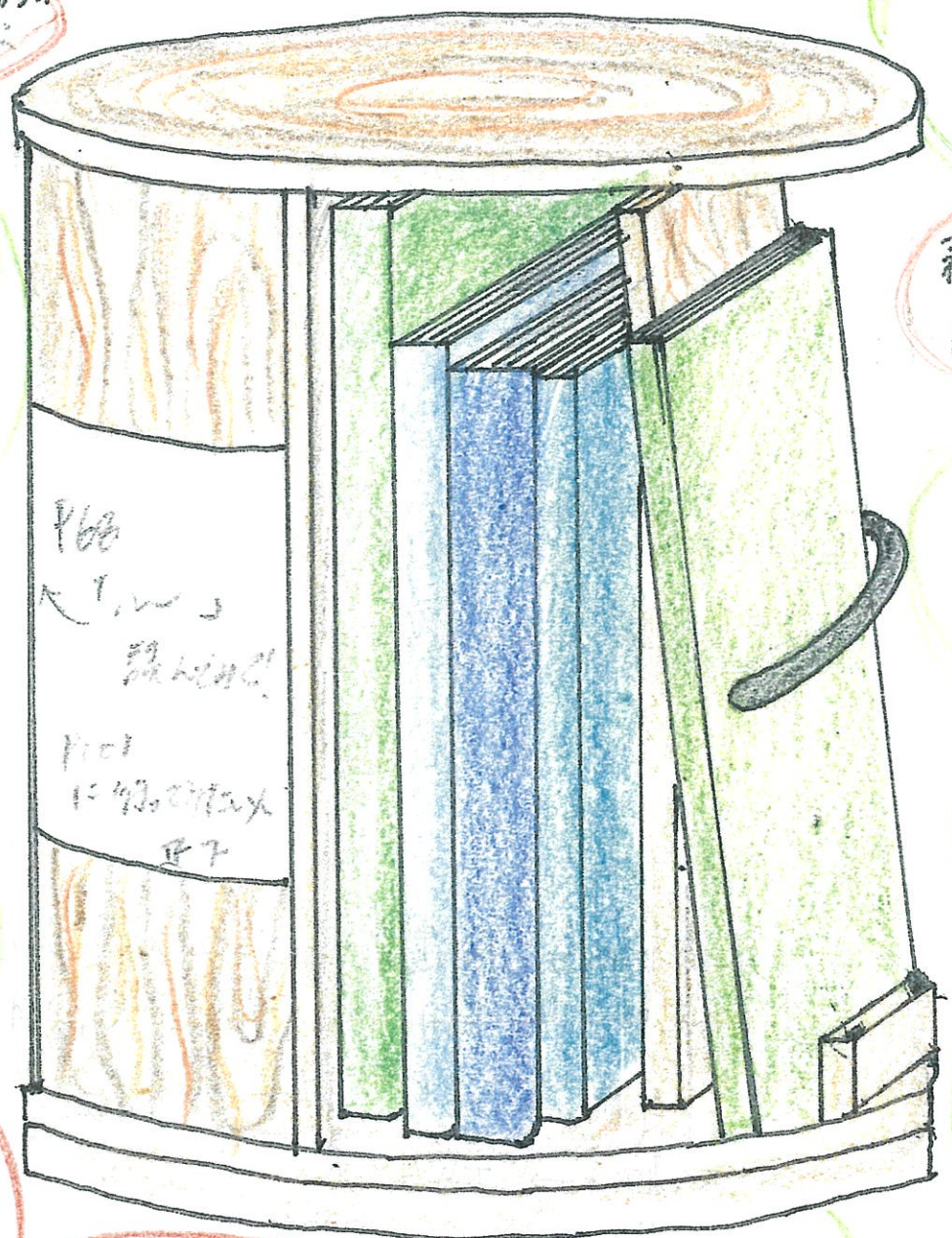
k a z o k u r u



—かぞくる—

—くろくと家族の間を回る、
“かぞくの輪”をつくる本棚—

神々!
—くるくる回ってくろくから
読書を促進!



表紙が見えるブックスタンド
+
雑誌・小説が入る棚

おもしろい!
—ホワイトボードでコメント
シエフ! 会話の幅が
より広がる!

卓上にもおろく。
“kazokuru”を複数個
重ねて使用することで、
インテリアのワンランク。
家族や同居人への
使い分けにも◎

木のイキ—
—切り口が真円・木目が真直ぐな
“おあきか河内材”を活かしたデザイン。
家に居ても、身近に自然を感じられる!

本棚より手軽! 家族の空間に!

—家族をモチーフに—

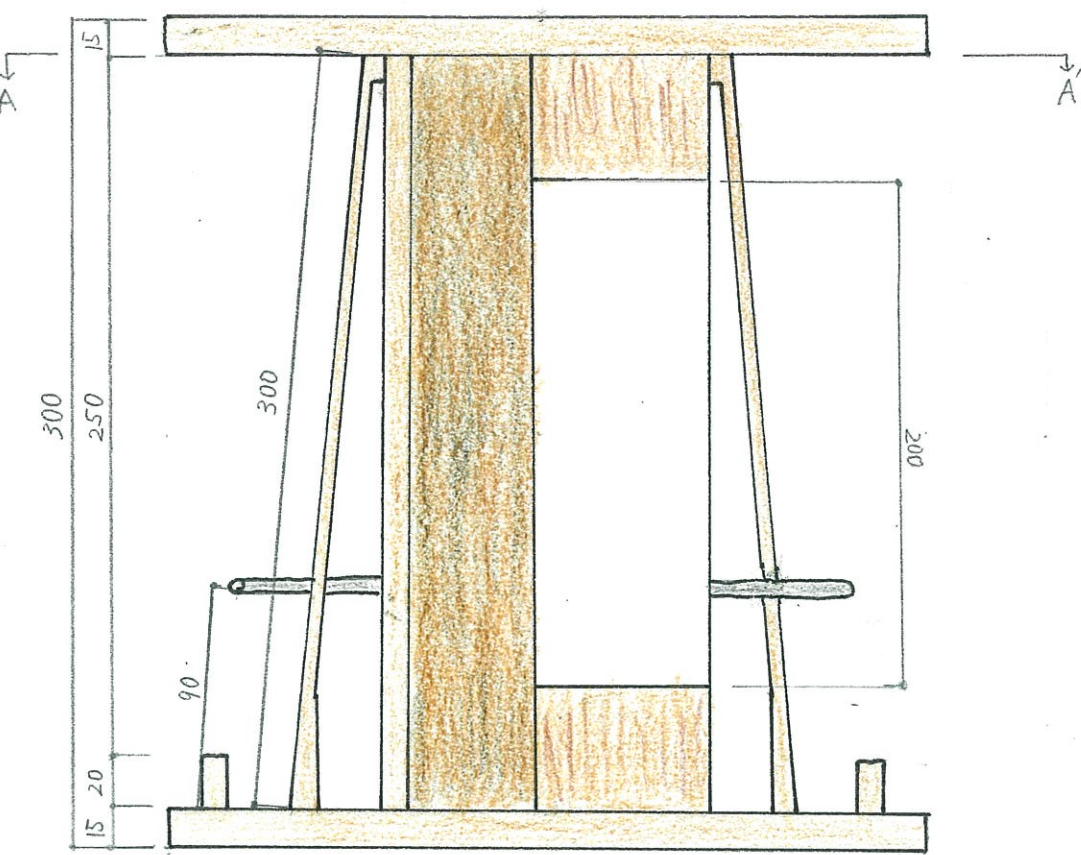
新型コロナウイルスの世界的な流行により、人々は自粛生活を余儀なくされた。家にいる時間が増え、同時に家族と顔を合わせる時間も増えている。しかし、家族間のコミュニケーションが増えたわけではなだろく。私たちはこれについて考え、「内にこもることによって外から得られるはずの話題が無い」という結論に至った。

そこで「本棚」を利用することで家族間のコミュニケーションを活性化させたいと考えた。「本」といって、一人で集中して読むものであると考える人が多だろく。しかし、「家族で共通する本棚」を設計することで、「本」から話題を得て、「本」を囲んで話し合う光景が浮かぶ。そんな家族像を描きながら、このプロダクトを作成した。
(※ここで記す家族とは、同じ屋根の下に住むおさまのことを指す。)

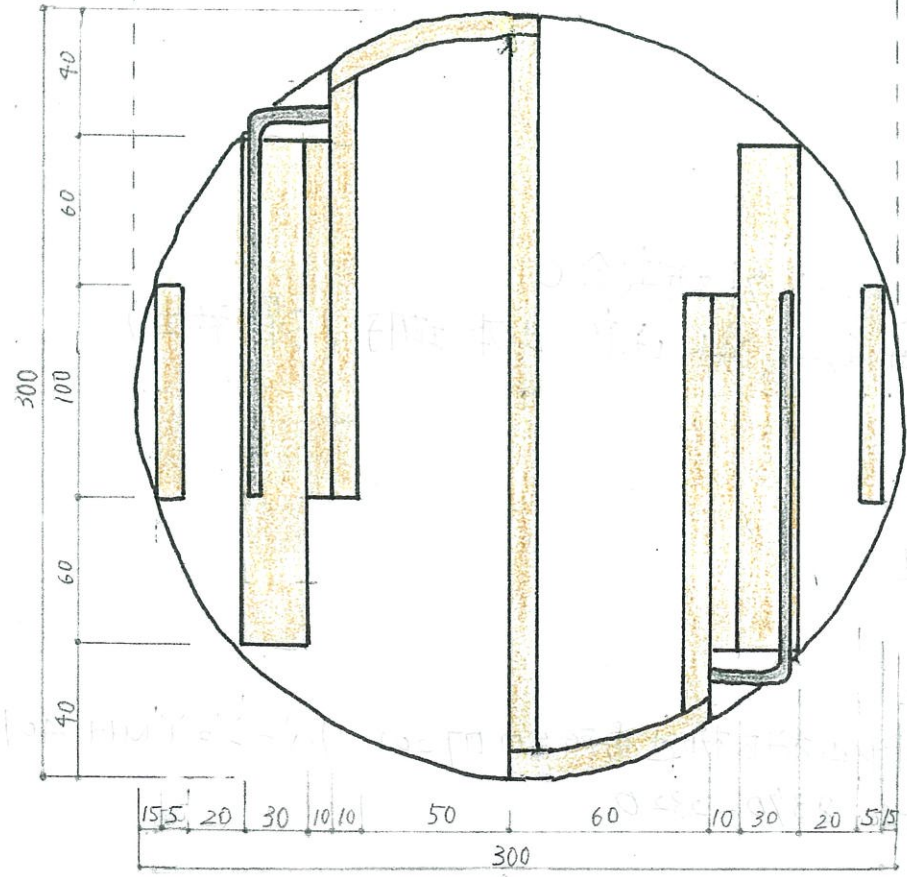
—木と触れ合う—

おあきか河内材は、木目が真直ぐで切り口が真円に近く、年輪の幅は緻密かつ均一である。さらに淡紅色で美しく、粘りがある丈夫な良樹材である。そのため、木目を見て(視覚)楽しみながら、木の暖かさを感じられるデザインにしたいと考えた。

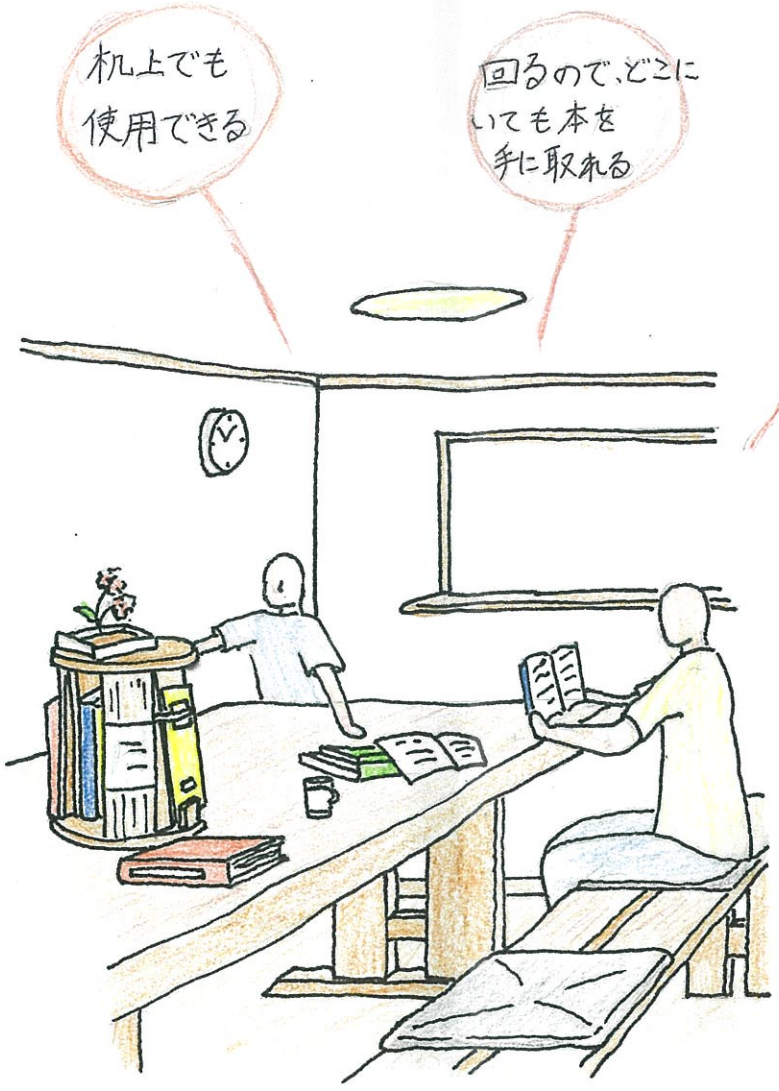
また、本棚を回転式にすることで、実際に触れて回したいと思わせる仕掛けを作った。それが木材に触れるきっかけ(触覚・聴覚)となり、さらに本を手に取るきっかけとなる。また、触れてしまうことで、木の香りをより感じやすくする(嗅覚)。本棚と触れ合う時間が、おろく時間が続く中でも自然を感じられる機会となることだろく。



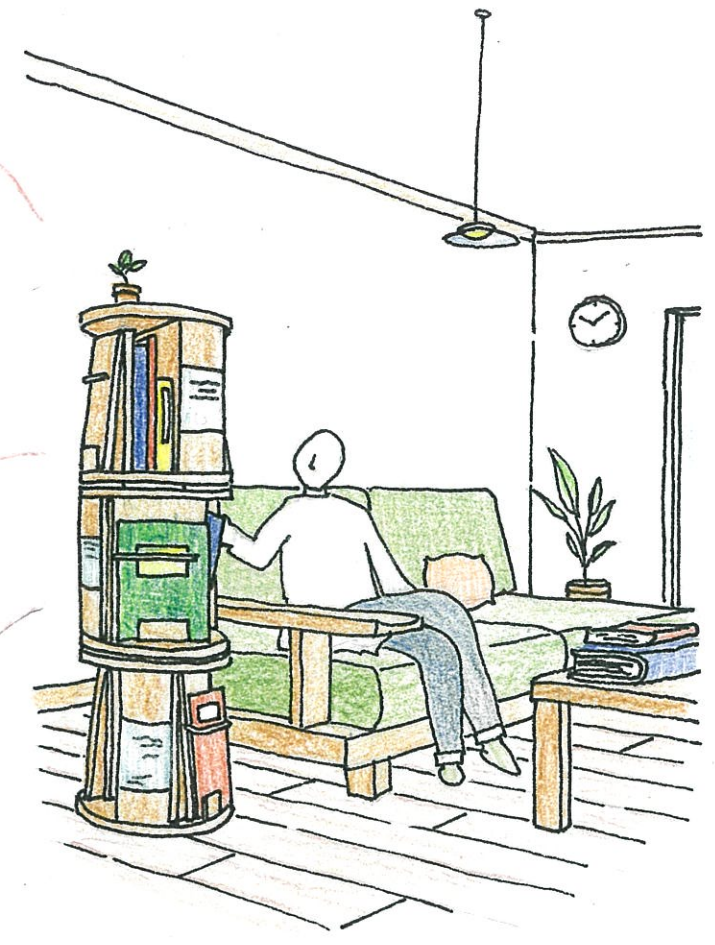
立面図 S=1/30



A-A' 断面図 S=1/30



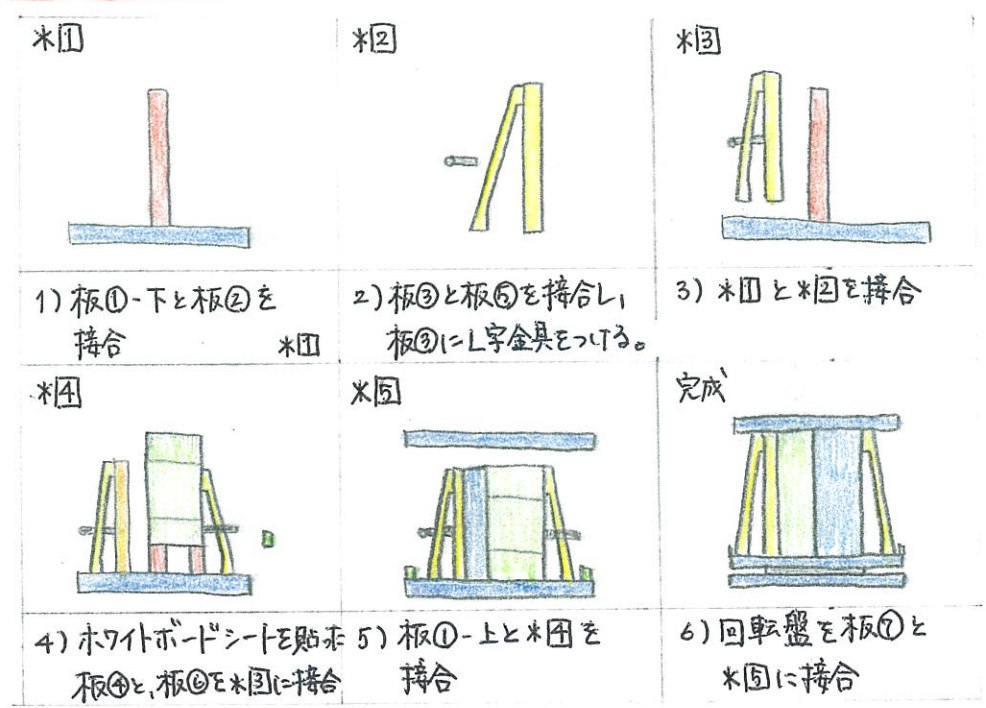
今日のメニューの レシピを見ながら 食べた次は何を つくるか考えたり……



部品

- 板① (半径15cm, 厚さ1.5cmの木の円板) x2 (上/下)
- 板② (縦30cm, 横28cm, 厚さ1cmの木の板) x1
- 板③ (縦30cm, 横16cm, 厚さ1cmの木の板) x2
- 板④ (縦30cm, 横7cm, 厚さ1cmの木の曲板) x2
- 板⑤ (縦30cm, 横20cm, 厚さ0.5cmの木の板) x2
- 板⑥ (縦2cm, 横10cm, 厚さ1cmの木の板) x2
- 板⑦ (半径15cm, 厚さ2cmの木の円板) x1
- L字金具 x2
- 木ダボ (6mm x 15mm) x 30
- 木ダボ (6mm x 12mm) x 4
- 回転盤 x1
- ホワイトボードシート (20cm x 6cm) x 2

作業工程



* 板⑤の上部分には6mm x 12mmの木ダボを使用する。その他の部分には6mm x 15mmの木ダボを使用する。
* *図1~*図5は両側の作業を行う。